

平成27年10月26日現在

白石町まち・ひと・しごと創生 総合戦略 素案（案）

～ 農業と人情のまち“しろいし”が
輝き続けるために ～

この素案（案）は、平成27年10月5日に策定した骨子（案）に対する様々な意見を基に作成したものです。
今後更にこの素案（案）に対する議論を重ねて、“案”を作成します。

目次

I 基本的な考え方はじめに

1 趣旨 1
2 総合戦略の計画期間 1
3 総合戦略の検証・改善・改訂 1
4 総合戦略の体系図 3

II 基本目標、基本的方向、具体的な施策

基本目標①

本気！やる気！元気！しろいし！ ～若者が安心して働ける場をつくる～ 4
--------------------------------------	---------

基本目標②

来てよか、見てよか、食べてよか、住んでよか、しろいし！ ～白石への新しいひとの流れをつくる～ 8
---	---------

基本目標③

出会いに感謝！目指せ子宝のまち、しろいし！ ～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～ 12
---	----------

基本目標④

くらしに豊かさを、地域に絆を、人の温もりを感じるまち、しろいし！ ～まちに活力をもたらし、地域をみんなで盛り上げる～ 18
---	----------

I. 基本的な考え方はじめに

1 趣旨

白石町の人口は、年々減少を続け2010年（平成22年）には25,607人で、2040年（平成52年）には17,711人、2060年（平成72年）には12,899人まで減少すると推計されています。（国立社会保障・人口問題研究所平成25年3月発表）人口減少が地域経済の縮小を招き、若者の町外流出とまちの活力が衰退し、さらに地域経済が縮小することにより、人口減少を加速させるという負のスパイラル（悪循環の連鎖）を克服しなければならないのは言うまでもありません。

このため、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定に基づき、白石町人口ビジョンにおける人口の将来展望等を踏まえ、白石町が今後行うべき具体的な施策を、白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略として策定し、その実行により人口減少問題に取り組んでいくものです。

この白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成27年度からスタートした第2次白石町総合計画の下位の人口問題等に関する個別計画として位置付けられます。

2 総合戦略の計画期間

総合戦略の対象期間は、国・県の総合戦略と同様、平成27年度（2015年度）～平成31年度（2019年度）の5年間とします。

3 総合戦略の検証・改善・改訂

総合戦略の策定、効果検証及び改善に当たっては、白石町まち・ひと・しごと創生推進会議（以下「推進会議」という。）の意見を反映させ、白石町議会（以下「議会」という。）の審議を受けた上で策定します。

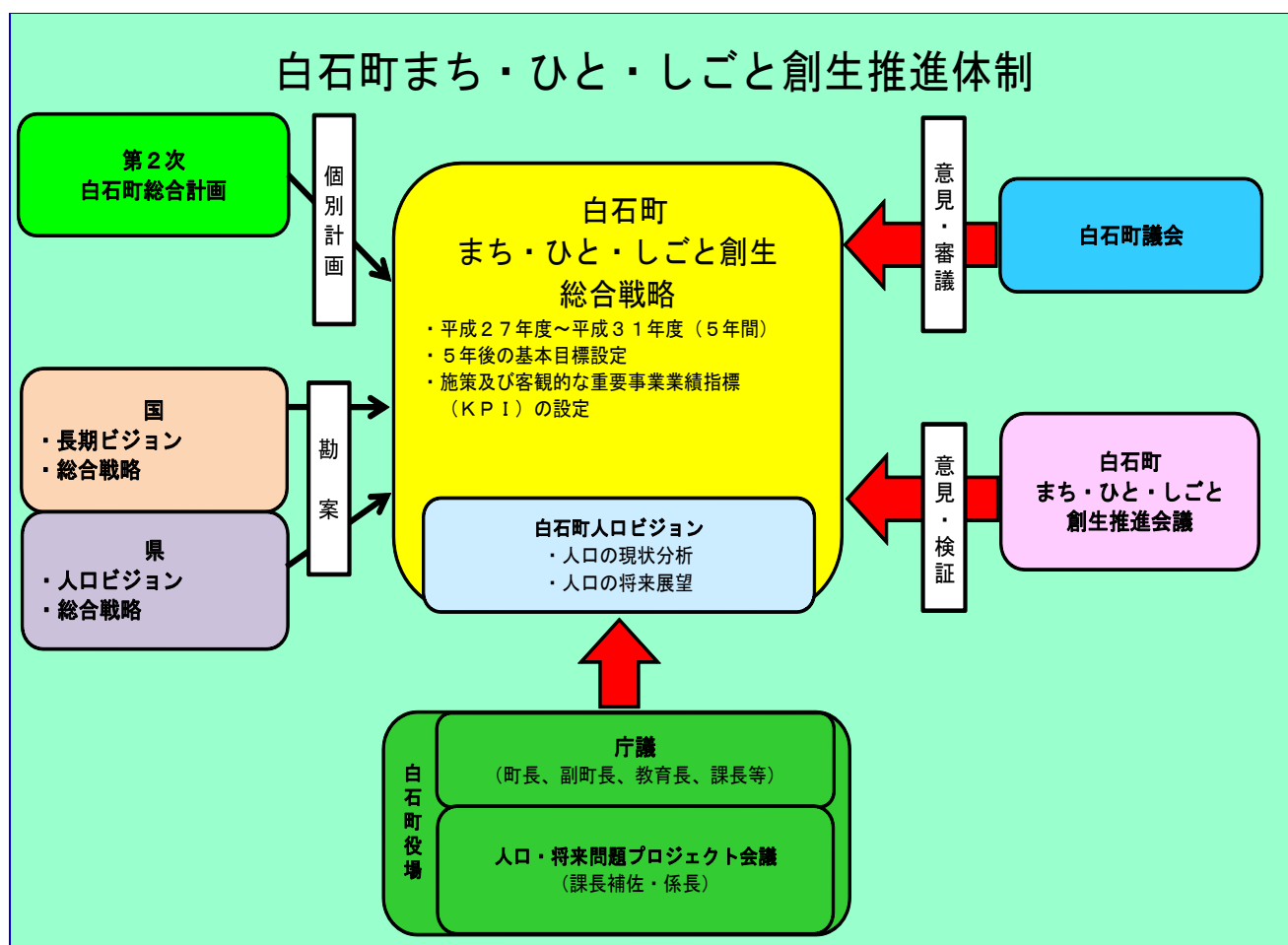
策定後は、基本目標の数値目標や具体的な施策に係る重要業績評価指標（KPI）の達成度により、白石町役場だけでなく推進会議による検証及び議会による審議を受け、改善を重ねる仕組み・PDCA（Plan（計画）・Do（実

行)・Check (評価)・Action (改善)) サイクルを確立します。

また、効果的な施策の追加が必要な場合などは、柔軟かつ積極的に対応するため、年度中途であっても改訂し、推進会議及び議会に報告します。

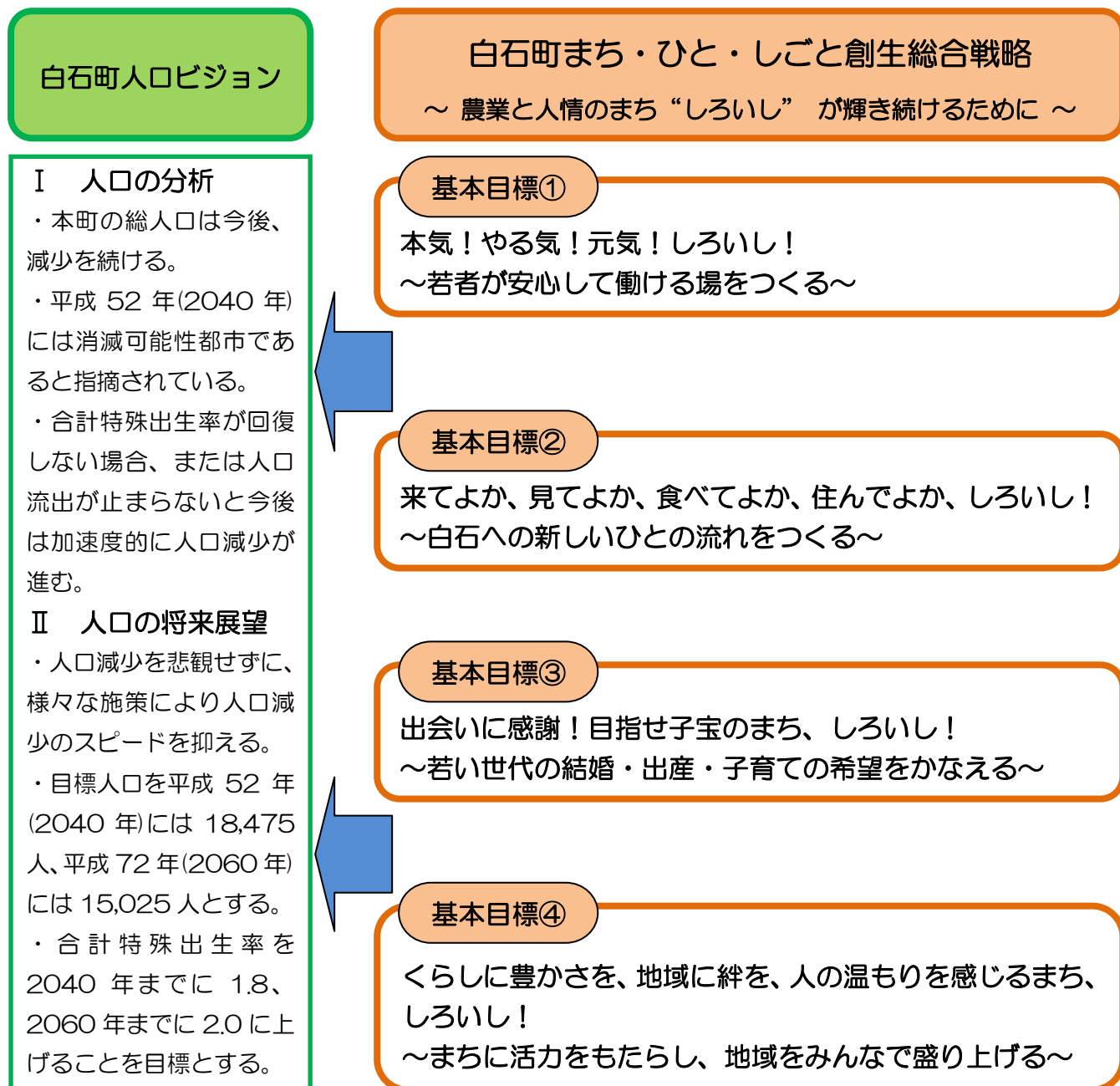
●施策追加の例

- ・ 国、佐賀県、近隣市町及び関係機関との連携事業
- ・ 大学等との連携による若者の地元定着の取組
- ・ 法制度の新設等による地方創生関連補助事業等
- ・ 町民協働による効果的な取組
- ・ 国が進める「小さな拠点」の形成 (集落生活圏の維持)



4 総合戦略の体系図

白石町人口ビジョンで示した将来の方向性に沿って、白石町まち・ひと・しごと創生総合戦略では、以下の4つの基本目標の実現を目指す。具体的な施策に取り組むことで、白石町人口ビジョンの将来展望を達成する。



Ⅱ. 基本目標、基本的方向、具体的な施策

基本目標①

本気！やる気！元気！しろいし！
～若者が安心して働ける場をつくる～

数値目標

- ◆新規雇用者数 75人
- ◆新規就農者数 170人

現状と課題

- 本町の平成25年（2013年）の社会減による人口減少は~~177163~~人で~~ある~~すが、年齢階級で見た場合、15歳以上30歳未満の転出超過が145人となっており、若者の町外流出が目立ちます。
- 主に進学や就職が原因の1つと考えられるが、平成26年度に実施した町内の小中学生へのアンケート結果から見ても約25パーセントの児童・生徒は「将来白石町に住みたいと思わない」と回答して~~います~~。
- その理由として、「将来なりたい職業がこの地域にないから」との回答が47.2パーセントとなっ~~て~~います。
- 次代を担う若者の流出は白石町にとって大きな痛手とな~~る~~。~~その~~ため、魅力のある職業など安心して働ける場をつくり、若い世代の町外流出を食い止める必要があ~~る~~ります。

めざすべき方向

- 国・県・周辺市町と連携した企業誘致などにより雇用の場を確保し、そこに必要な人材を育成・確保~~する~~し。~~また、県外に進学や就職した人へのU I J ターンを促進~~するします。
- 白石町の既存企業を育成・支援し、また、新しく起業することへのチャレンジや6次産業化に取り組む農林漁業者~~等~~に対し、段階に応じた支援を行~~っ~~ています。
- ~~農地中間管理機構を活用し、農地の集積・集約化を図り、集落営農組織・複数個別経営体の法人化を目指す。また、農業支援体制を強化し新規就農者の育成・確保を目指します。~~

具体的な施策と重要業績評価指標（K P I）

※重要業績評価指標（K P I : Key Performance Indicator）

施策ごとの進捗状況を検証するために目標の達成度合いを計る定量的な指標のこと。

1 企業や教育機関、公共的機関の移転の誘致による雇用の確保

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・女性従業員数 15人
- ・公共的機関 1機関
- ・企業の誘致数 2事業所

（1）就活サポート事業女性にやさしい空間づくり

主要道路沿いや商店街の空き店舗などでは、女性に人気のある店舗等企業（洋服屋、ネイル、雑貨店など）を誘致し、併せて病院、薬局、カフェ、託児所子育て支援施設等を作り集積し、女性が安心して働ける場所を作ります。女性に優しい空間を作ることで女性を呼び込む。ショールーム等では町内の女性を多く採用してもらう。

（2）国・県等の公共的機関の誘致

国などの国・県・公益財団法人・NPO法人などの公共的機関が移転し、職員とその家族が白石町で生活することにより町の人口が増え活性化を誘致するします。

※NPO法人

「Non Profit Organization」の略で、「民間非営利組織」と訳される町民協働のパートナーとして注目されている。

（3）教育・人材育成研究開発機関の誘致と連携

農業系などの教育・研究開発機関を誘致し、後継者と新規就農者を育成することにより農業の担い手の確保を図ります。

（4）白石町に合う企業の誘致

農村地帯に適合し、農林水産物の加工・販売に関わる企業や、事務系事業所などを誘致するします。

2 新規就農者及び農業後継者の育成・確保

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・新規農業従事者 150人

- ・しろいし農業塾卒業者の農業従事者数 20人
- ・農業従事者（被雇用者）数 25人

(1) ~~(2)~~ 新規農業就業者対策支援事業

現行新規就農対策の拡充により、就農前の初期投資の負担軽減や就農後一定期間の就農助成により、新規就農者や後継者の確保を図ります。

(2) ~~(3)~~ しろいし農業塾

町内に就農及び移住してもらうため、首都圏等の大都市や町外から就農希望者を募集し、農業団体等で受入れ、農業研修生として農業全般に従事し、農業の担い手確保と定住促進へ繋げます。

(3) ~~(1)~~ 農業従事者（被雇用者）確保対策事業

農業者等が年間を通じて従事者（町内在住者でU-I-Jターン、や移住者を含む）を雇用し、町内の農業の安定的な生産を図るとともに後継者として就農するように育成することで地域発展に寄与を積極的に支援するします。雇用した場合は補助金を支出する。

3 新しいことへ挑戦する人への積極支援

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・起業・創業者 5人
- ・6次産品開発件数 46件
- ・新規農産物 3品

(1) 白石町創業者支援制度

町内金融機関等の協力を得て、白石町で起業・創業されしよとする個人又は中小企業者に対して、創業者が持つビジネスプラン成長性の高い事業計画の実現を支援し、を審査し、を持つ創業者に対して、成長のための課題改善に要する資金として補助金を交付支援するします。

(2) 健康補助食品等の原材料となる儲かる農産物の開発に伴う雇用の創出

・企業等が製品に使用する農産物（原料）で、町内教育機関等との連携により、女性や高齢者でも作業のできる体力的に負担の少ない産品農産物の開発が必要を行う人を支援します。

・近年は健康志向により安全で安心な農作物が好まれるため、研究機

~~関のノウハウを活かして連携し、効能や成分を分析して販売につなげる。
中山間地や休耕田を活用する。~~

(3) 6次産業化の推進

情報発信、販路開拓、補助事業活用などへの相談・指導を行います。

(4) 商工業者などへの支援

新商品や新製品の開発、新たな販売促進及び商店街の賑わいづくりに取り組む人への支援を行います。

4 地域を理解する人材の育成

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ Uターン者 5人

(1) “ふるさと学”の推進

町内外の教育機関との連携を含め、町内小中学校での農業、地域の地理歴史及び文化の理解を深め、ふるさとに誇りと愛着を持ってもらい、将来のUターンにつなげていきます。

基本目標②

来てよか、見てよか、食べてよか、住んでよか、しろいし！
～白石への新しいひとの流れをつくる～

数値目標

◆観光入込客数（道の駅来店者を除く） 10%増倍

平成26年 286,600人 → 平成31年 315,200人

※観光入込客数

地域を訪れた来訪客のこと。

◆移住者数 30人

現状と課題

- 東京への人口一極集中を是正するために、魅力ある地方への移住希望が多い中、地方がまだその期待に応えきれてい**ない**ません。白石町もその1つであり、早急な体制の整備が求められてい**る**ます。
- 基本目標①の雇用の場を確保しながら移住体制を整備することは、極めて重要な課題で**あ**るす。
- また、平成~~31~~**30**年度中に開通予定の有明海沿岸道路福富**IC**インターチェンジ（仮称）付近に設置予定の道の駅は、新しいひとの流れをつくる起爆剤となる可能性を秘めてい**る**ます。
- 白石町の主要産業である農業を核として、地域経済に活力を生み出すために新しいひとの流れをつくる**こ**とが重要で**あ**るす。

めざすべき方向

- 白石町の魅力を発信し、道の駅を拠点として人・モノ・情報を積極的に交流させ、より多くの人に白石町の良さを伝え新しいひとの流れをつ**く**り**ま**す。
- 都市からの移住希望者に対してワンストップで移住関連情報を提供できる体制を作るとともに、お試し移住や仕事の紹介などきめ細かな支援を行**い**ます。
- 移住者が住みやすい受け入れ態勢を作り、「よそ者」目線でまちづくりに貢献してもらうことで地域の活性化を図**り**ます。
- 白石町の観光資源を再認識し、それを結び付けることで観光ルートを設定**す**ります。また、農業体験などを盛り込んだグリーンツーリズムなどを周辺市町と連携しながら推進**す**ります。
- 地震や水害等災害が少なく、安心して住むことができることをアピール**す**る。

します。

具体的な施策と重要業績評価指標（K P I）

1 白石町の魅力発信、~~情報交流など~~

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・道の駅来店者数 年間30万人
- ・町ホームページアクセス件数 20%増
平成26年 197,700件 → 平成31年 237,200件

(1) 道の駅整備事業

平成30年度の有明海沿岸道路福富インターチェンジ（仮称）供用開始に合わせ、町の農水産物・6次産品や観光等の情報発信の拠点として整備します。~~現行取組の推進。~~

(2) がばいよかところ発信事業

~~人口減少が危惧されるため、交流人口や町外からの移住者を増やす必要がある。そこで、~~従来の特産物PRに加え、町そのものをマスコミやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等多様な手段を用いて発信することで知名度を上げ、特産物や地域資源を通じたファンの確保や移住者に選択してもらえる町としてPR~~する~~します。

2 定住促進、移住支援

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・空き家バンク登録件数 20件
- ・移住者数 30人

(1) 農村型新興分譲宅地の創設

~~町で農地等を安価で買収し、有明海沿岸道路へのアクセスが便利な箇所に、区画を大き~~めに設定し、一部を農園やガーデニング等に用いて楽しめるようなコンセプト~~を打ち出しPRを図る。~~の住宅用地を確保整備します。~~低価格で提供する。一般の宅地分譲と白石町独自の差別化を図る意味で、エリアは、佐賀市方面や将来的には大牟田方面への通勤等に~~利便の良いベッドタウン化を行うため、有明海沿岸道路IC付近や福富ゆうあい館周辺、県道武雄福富線沿線（福富地域）の将来有明海沿岸道路へのアクセスが便利な箇所を検討。

(2) 空き家・空き地バンク、お試し移住

空き家・空き地バンクを創設し、~~移住者等へ取得の支援を行う。また、登録された空き家を借り上げてのお試し移住や町による住宅建設及び販売を行う。併せて、町民による移住者受入サポーターを選任設置し移住者の支援を行います。~~

- (3) ~~町県外への通勤・通学者への交通費駐車場代の助成~~
~~通勤・通学圏を福岡まで広げてもらうため、通勤・通学費駐車場代の助成制度を創設するします。~~

3 地域観光資源の再発見

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・観光入込客数 10%増
平成26年 286,600人 → 平成31年 315,200人
- ・観光ルート数：3本

(1) 広域的なグリーンツーリズム

白石町で1年を通じて農業体験を行い、宿泊は~~嬉野温泉or武雄温泉~~隣の温泉地や町内での民泊などとし、農業体験と温泉の~~コラボによるパッケージ旅行~~の開発を行います。

※グリーンツーリズム

農山漁村地域において自然、文化、人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動。

(2) 杵島山系歴史散策コースの設定

- ・杵島山系にある史跡等を観光資源とするための整備を行い、戦国時代の名将龍造寺隆信などと合せて売り込みます。高城の遺構石積みはほぼ現存していることで、築400年以上が経つ城~~一帯~~を散策が出来るよう整備する。龍造寺家のことはあまり知られていないことから、戦国時代の歴史資料書を備える。既存施設を歴史資料館として利用（三近堂を改築）。~~現在、歴史を掘り下げる番組もあっており、歴女などを呼び込める。~~
- ・歌垣公園の花の種類を限定し、ある程度の面積を確保し、アクセス道路の整備を行います。

(3) 交通手段の拡充（~~来町者観光客の利便性の向上、レンタカー助成~~）

- ・~~他市町から肥前白石駅まで来て、そこからの移動手段がないので、レンタカーがあれば移動が可能になる。佐賀空港からはあるのでそういったもの。~~観光用いこカー（乗り合いタクシー）やレンタサイクルを新

設し、町内 J R 駅を利用した観光客が手軽に町内を観光できるような環境を整備します。

(4) 地域資源活用観光振興事業での計画事業の実施

白石町観光推進協議会を設置し、観光ルートの設定と観光パンフレットや観光案内看板、標識を整備します。

基本目標③

出会いに感謝！目指せ子宝のまち、しろいし！

～若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる～

数値目標

◆合計特殊出生率 1.60 → 1.65

◆婚活サポート事業による結婚者成婚数 20組

現状と課題

- 核家族化や人口減少、価値観の**変化等多様化**により本町においても少子化が進行して**います**。
- 本町の合計特殊出生率は1.60で、県と比較してもほとんど差異はないが、出生数は減少を続けており、平成24（2012）年は184人となっている**ます**。
- 保護者の子育てに対するニーズは多様化し、ひとり親家庭なども増加傾向にある中で、就業・育児環境においても多くの課題が**あります**。
- そのため、若者の出会いをプロデュースし、将来の本町を支える子どもたちを産み育てやすい環境を整備することが必要で**あります**。

めざすべき方向

- 結婚を希望する男女には出会いの場を、また、希望子ども数を実現できるサービスや子育て支援など安心して出産・子育てができる環境を整備**します**。
- 定住促進対策と組み合わせた少子化対策と子育て支援、仕事と育児の両立支援など若い世代の結婚・子育ての希望の実現を目指**します**。
- 子育ての悩みを1人で抱え込まず、相談・共有できる環境や、出産から**子どもが就職するまで切れ目のない支援の実現を目指します**。
- 特色のある教育環境を整えることで、子どもの個性を最大限に発揮し、次世代を担う人材を育成**します**。

具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

1 結婚のサポート体制推進対策の充実

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ 婚活サポート事業による成婚数 20組

(1) 婚活サポート事業の拡充

~~婚活サポート事業の一環として、自分の息子、娘の結婚を真剣に考えている親、叔父叔母の登録を行う。独身者のプロフィールを持参しての親同士の懇親交流会を実施し、親同士が気に入れば次は独身者同士での出会いにつなげていく。~~

婚活サポーターによる取組に加え、婚活事業に関連する民間企業や個人との連携、イベントや他の市町村との連携など多様な取組を行っていきます。

~~(2) SNSを使ったお見合いサイトの開設~~

- ~~・ 町公認お見合いサイトの開設。まずは出会いから。若い女性は地元にはいません。ネットを通じて出会いをサポートする。~~

2 出産に関すること支援

~~【重要業績評価指標（KPI）】~~

(1) 不妊治療制度の拡充 ~~(県助成額残を全額助成)~~

~~不妊治療への支援は現在も行われていると思うが、その制度の拡充をさらに拡充し、継続し、相談体制の充実を図ります。行い、不妊治療を行いやすくする県助成額残を全額助成します。~~

(2) 多子世帯 ~~(4人以上)~~ への助成

児童手当や給食費などでの優遇 3人以上の子どもを持つ世帯の子育てに係る負担軽減措置を実施します。

~~(3) 乳幼児用おむつ代の助成~~

- ~~・ 3歳までの乳幼児のおむつ代の購入実績に対し、例えば 2,500円/月の助成。但し、現金での支給でなく町内用の商品券の配布とし、町内の~~

~~商店の活性も併せて行う。~~

3 子育て支援に関すること

【重要業績評価指標（KPI）】

- ・ 町内での病児・病後児施設数 1施設

~~(1) 病児・病後児保育の実施（町内病院で実施）~~

~~・ 現在、江北町に負担金を支払って実施されているので、白石町内で実施できればもっと利用も増えて子育て支援につながるのでは。子育ての希望をかなえるため、病児保育の預け先が町内にない。病児・病後児保育の町内実施に向けた環境整備を行います。~~

~~(2) ブライダルプロジェクト~~

~~・ 結婚5周年を迎えるカップルに、町内の飲食店で利用できる食事券をプレゼントし、子どもがいるカップルには子どもを午後10時まで無料で預かる事により、夕食を取りながら自分達だけで過ごす時間を楽しんでもらい、思い出に残る記念日としてリフレッシュしてもらう。
（食事券などをプレゼント、核家族は子どもを預かる）~~

~~(3) (2)「ゆめてらす」の一時預かり事業等拡充の充実~~

~~一時預かり事業の巡回開設と育児サロン事業の地域ごと開設を充実します。~~

~~(4) パパ向け子育て支援セミナー等の開催（父親の子育て参加）~~

~~・ 女性の社会進出が求められる中、父親が家事や育児に参加し、その大変さを共有することで、夫婦間の信頼が深まり、家族のふれあいが増えることによって、子どもの健やかな育ちに良い影響を与えることができる。~~

~~(5) 家庭保育手当の創設（未満児を保育所に預けず家庭でみる）~~

~~・ 休日・時間外保育が国を挙げて推進されている一方、未満児から長時間預けられることによる幼児のストレスは計り知れず、家庭保育を推進するための施策を打ち出したい。具体的には、未満児を保育所等に預けず家庭において保育されている世帯に対し、家庭保育手当を支給し、家庭保育を選択する世帯を応援する。~~

~~(6) 保育料の見直し~~

~~・第2子以降からの保育料無料軽減。~~

~~-(7) (3) 子育て支援の情報発信強化~~

~~町内の子育て支援情報について、情報発信力を高め、統括した情報を提供する。白石町ですでに実施されている子育て支援は他市町と比べても見劣りするものではないが、その子育て支援の情報が町民に十分に認知されていない。各課、各団体町内で実施されている子育て支援事業等の情報を集約し情報発信することで、白石町の魅力を伝えるとともに、子育て世代の不安の軽減を目指します。~~

~~-(8) (4) 子育てに関するワンストップ相談体制の整備~~

~~妊娠期から小中学校児童・生徒までワンストップで相談できる体制窓口を整備一本化するします。(子育て世代包括支援センターなど)~~

~~-(9) (5) 公園施設(公園や遊具)の充実に関すること~~

~~白石中央公園、福富マイランド公園、有明スカイパークふれあい郷などの主要公園で、子育て世代の意見を採り入れて、もっと子どもが遊びやすく、~~なるべく~~に他市町村からも人が集まるような魅力のある公園整備を行い、~~を作ります。~~~~

~~-(10) (6) 小学6年生、中学3年生の給食費無償化切れ目のない子育て支援の実施~~

~~平成27年度から実施している小学6年生、中学3年生の給食費無償化を継続します。~~

4 教育環境の整備

【重要業績評価指標 (KPI)】

・コミュニティ・スクール導入学校数 11校

※コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え「地域と共にある学校づくり」を進める仕組みのこと。

~~-(1) 多世代コミュニティーモデル事業~~

~~・小中学校を統合し、生活態度、学力、スポーツの向上に力を注いで、全国的に有名な学校を築き上げ、白石町で子供を育てたいという環境づ~~

~~くりを行う。~~

~~(2)~~ (1) コミュニティ・スクールの導入

現在進めている町内小中学校でのコミュニティ・スクール導入~~の~~を推進します。

基本目標④

くらしに豊かさを、地域に絆を、人の温もりを感じるまち、しろいし！
～まちに活力をもたらし、地域をみんなで盛り上げる～

数値目標

◆~~まち~~地域づくり協議会設置 8か所

現状と課題

- 急激な人口減少や高齢化に伴い、様々な課題が地域から出てきてい~~る~~ます。
- 地域の課題は多種多様で、それぞれが知恵を絞って解決していくことが望まれている~~る~~ます。
- ~~しかしながら~~、地域にはキーパーソンとなるべき人材が~~不足し~~埋もれている~~る~~ます。
- 地域の活力を取り戻すためには、地域の誰もが活躍できる社会を実現することが必要である。

めざすべき方向

- 地域住民の積極的な参加の促進により、住民の声を行政に反映できる仕組みを構築~~す~~ります。また、地域の様々な課題に対し、これまでの行政主導ではなく、地域住民が主体となって課題解決に取り組むためのノウハウの習得や人材確保の支援を行~~い~~ます。
- 突発的な自然災害等の対策のための施設や情報共有などの体制を整備~~す~~ります。
- 地域の~~高齢者~~人々が持つ豊富な経験や知識を後世に継承していくとともに、誰もが生き生きと活躍できる社会を目指~~し~~ます。
- 男女がお互いに人権を尊重しつつ、責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮できる社会づくりを目指~~し~~ます。

具体的な施策と重要業績評価指標（K P I）

1 町民協働によるまちづくり

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・地域づくり協議会の設立数 8か所
- ・NPO法人の設立数 3件

※NPO法人

「Non Profit Organization」の略で、「民間非営利組織」と訳される町民協働のパートナーとして注目されている。

（1）地域づくり協議会の設立支援

生活環境など地域の問題を地域住民が主体となって解決するため、地域内の各種団体などで構成する地域づくり協議会（仮称・概ね小学校区単位）の設立を支援します。この地域づくり協議会には、若者や女性の積極的な参画を促します。

（2）NPO法人・CSO活動の支援

※CSO活動

「Civil Society Organization」（市民社会組織）の略で、NPO法人、市民活動団体、ボランティア団体に限らず、自治会、婦人会、老人会、PTAなどのこと。

NPO法人やCSO活動の設立や活動支援を行うことにより、行政では行き届かないまちづくりや福祉サービスなどの担い手として協働していきます。

1-2 安全・安心で快適な住みよいまちづくり

【重要業績評価指標（K P I）】

- ・自主防災組織の組織率 50%

※自主防災組織

地域住民が協力・連携し、災害から「自分たちの地域は自分たちで守る」ために活動することを目的に結成する組織。

（1）自主防災組織の組織化推進

自主防災組織の設立により、自助・共助の取組を推進します。

~~（2）公用車のパトカー化事業~~

~~・全国的に治安の悪化が懸念されるため、公用車をパトカー仕様に変更し、安心・安全なまちづくりに寄与する。町に赤色灯を点けた公用車が動き回ること、防犯や事故防止につながり、安心安全な住環境をつくることできる。~~

~~2-3 自然にやさしいまち~~

~~【重要業績評価指標（KPI）】~~

~~・太陽光発電事業者の誘致件数 1件~~

~~(1) 自然エネルギーのまち事業~~

~~・貯水池などの町有地に、太陽光発電事業者を更に誘致し、固定資産税などの税収分を、合併浄化槽設置補助金などに活用し、環境に優しいまちづくりを推進する。~~

~~(2) 電気代0円のまち事業~~

~~・町が電気事業に参入し、町民に対し安価な電気を供給する~~

3 誰もが活躍できるまちづくり

【重要業績評価指標（KPI）】

・シルバー人材センター年間登録者数 120人

(1) 生涯現役としての活躍促進

高齢者と区切ることなく誰もが年齢に関わらず活躍し、地域を盛り上げてもらうために、起業・創業、文化活動、自分のやりたい仕事ができる場所づくりなどを促進します。

(2) 女性活躍の推進

政策の決定過程など様々なまちづくりに対する女性の参画を促し、合せて女性に配慮した公共施設の整備を行います。